

乙部 延剛

法学研究科・教授

【研究】

昨年度に引き続き、科研費プロジェクト「文化批判と政治理論：キッチュ批判をめぐる政治思想史」（代表・個人）の研究に主に注力した。主な成果として、キッチュ概念をめぐるC・グリーンバーグとランシエールの議論を検討した研究を政治思想学会研究大会で報告したのち、論考としてまとめて『思想』1217号（岩波書店）に発表した。

ほか、研究成果として、昨年度取り組んでいた闘技デモクラシー論が『現代民主主義論ハンドブック』（田村・山本編）の一章として出版された。

また、複製芸術や文学批評も手がけた大熊信行の国家論および経済構想について、ロンドン大学クイーン・メアリ校（英国）にて開催された国際シンポジウムにおいて報告した。

【教育】

大学院においては、博士後期課程1名、博士前期課程2名の指導を担当し、また、日本学術振興会特別研究員（PD）を1名受け入れている。院生、研究員の研究を活性化するため、週一で全体ミーティングを開催し、研究アイデアを報告し、フィードバックを得る場として活用している。また、このミーティングでは時折外部ゲストを招き、研究の活性化を図っている。また、あわせて、個別の院生、研究員と随時ミーティングを行い、論文や翻訳の指導を行っている。

学部においては、「西洋政治思想史」の講義では、2024年度より授業内小テスト等を活用することで、期末レポートないしは試験のみであった従来よりも知識・理解の定着を図っている。また、学部の演習では、原則として論文執筆を課し、それに合わせた指導を行うことで、学生の主体的な学習への取り組みや、長い文章を論理的に書く能力の涵養を重視している。

【管理運営】

部局では研究科教務委員会の運営に携わり、2、3 回程度教務委員長の代理をつとめた。また、欧文紀要の編集に携わった。

全学では、人社系オナー大学院プログラム教務委員会および MLE 協議委員会の活動に参加した。前者では、法学研究科も加わったグローバル政策リーダーユニットの設置にこぎつけることができた。

また、本年度は 6-7 月にロンドン大学クイーン・メアリ校よりラッセ・トマセン教授を日本学術振興会外国人招聘研究者（短期）および研究科の特任教員としてお招きし、学内外の研究者を加えたシンポジウム「政治理論へのオルタナティブなアプローチ」（6 月）を開催し、また特任教員として授業を担当していただいた（7 月）ほか、大学院生や特別研究員の研究にたいしてアドバイスをいただいた。

【社会貢献】

学術団体関係では、国内では政治思想学会の理事として学会誌の編集に携わったほか、2026 年度研究大会の企画委員をつとめている。国外では、世界政治学会（IPSA）の 2025 年大会（7 月・ソウルで開催）の政治理論セッションの共同チェアをつとめ、大会をぶじ終えることができた。

その他、学会に関連した活動として、国内の査読誌（3 本）国外の査読誌（2 本）の査読を行ったほか、関西の政治思想研究者・大学院生からなる西方政治理論研究会の共同幹事をつとめ、研究会の開催、運営等を行っている。

一般向けの活動としては、スロヴェニアのラジオ局（Radio Student）で受けたインタビューが放映された。